



ごとう しん
後藤 伸 氏

生年月日 昭和 4 年 12 月 1 日生

住 所 田辺市秋津町

昭和 4 年 (1929 年) 12 月 1 日、日高郡由良町で生まれる。

旧制耐久中学校から和歌山師範学校を経て、和歌山大学教育学部へ進学、昭和 28 年 (1953 年) 3 月に同大学を卒業後、教職に就く。

佐本中学校 (西牟婁郡)、衣奈中学校 (日高郡)、加太中学校 (和歌山市) の教諭を経て、昭和 38 年 (1963 年) 4 月に田辺高等学校へ赴任、その後、昭和 63 年 (1988 年) 3 月に県立南紀高等学校の教諭を最後に退職するまでの 35 年間、中学校、高等学校を通して「理科」並びに「生物」「地学」の教科を担当し、その旺盛な研究心と卓越した指導力等をもって学校教育の充実と生徒の指導・育成に尽力する。

氏は職務に専念する傍ら、早くから自然保護の重要性を感じ、特に半世紀前には紀伊半島の随所に数多く残っていた自然林、原生林とそこに生息する動植物に関し、その実態と移り変わり等について今日まで地道な研究を続けている。

紀伊半島の自然林は、昭和 30 年 (1955 年) 代を境にしてスギ・ヒノキの植林にその主役の座を奪われ、平成 10 年 (1998 年) 現在、消滅寸前の危機的状态にあり、またこうした森林の変貌とともにそこに生息する動植物も激減、紀伊半島の生態系はこの数十年間で大きく様変わりしつつある。氏は、こうした生態系の激変に早くから警鐘を鳴らし、自然と人間との本来あるべき関わり方について提唱してきた一人である。

また、照葉樹林の生物学に造詣が深く、国の天然記念物である「神島」の動植物の調査・保護活動や、ナショナル・トラスト運動発祥の地である「天神崎」の自然保護活動などにも力を尽くす。特に天神崎については、「天神崎の自然を大切に作る会」発足当時からの活動の中心的存在として活躍、自然観察会など諸々の機会を通して、その重要性を広く一般に訴え、今日、全国的に有名となった「ナショナル・トラスト運動発祥の地、天神崎」の礎を築いた一人でもある。

さらに平成 9 年 (1997 年) 12 月には「いちいがしの会」を設立、「木の実を集めて苗を育て、その木を植えていく」、このことにより人だけでなく、すべての生き物が関わり合える本来の自然を取り戻し、かつて紀伊半島に溢れていた照葉樹林を復活させることを目標に田辺・西牟婁地域を中心に始められたその活動は、多くの賛同者を集め、現在、東牟婁地域へとその輪を大きく広げつつある。

第 29 回 (平成 10 年)

一方、ライフワークともいえるべき「カメムシ」の研究では、日本における第一人者といわれる存在であり、半世紀にわたる研究活動の中で採集した標本は、カメムシを中心に鱗翅類などを含め数万点にもものぼり、その活動の範囲は、紀伊半島はもとより日本全国、さらには東南アジアやオーストラリアにまで及んでいる。

そのほか、昭和 39 年 (1964 年) から田辺市文化財審議会委員を、また昭和 62 年 (1987 年) からは田辺市史編さん専門委員、南方熊楠邸保存顕彰会理事などを務め、その専門分野の知識を活かして田辺市の文化財の保護、顕彰はもとより、南方熊楠の研究、紹介などに尽力している。

(略 歴)

昭和 28 年 (1953 年) 3 月	和歌山大学教育学部卒業
昭和 28 年 (1953 年) 4 月	佐本中学校教諭 (その後、衣奈中学校、加太中学校教諭)
昭和 38 年 (1963 年) 4 月	和歌山県立田辺高等学校教諭
昭和 54 年 (1979 年) 4 月	和歌山県立南紀高等学校教諭
昭和 39 年 (1964 年) 4 月	田辺市文化財審議会委員
昭和 61 年 (1986 年) 4 月	財団法人 天神崎の自然を大切にする会理事
昭和 62 年 (1987 年) 5 月	田辺市史編さん専門委員
昭和 62 年 (1987 年) 6 月	南方熊楠邸保存顕彰会理事

その他 日本生態学会会員、日本半翅目学会会員、南紀生物同好会副会長、いちいがしの会会長、紀南文化財研究会会員

(著 書)

- 『くまの文庫』各集 (熊野中辺路刊行会)
 - 『自然を捨てた日本人』 (共著 東海大学出版会)
 - 『日本植生誌近畿篇』 (和歌山県の植生の項執筆・至文堂)
 - 『日本の自然 原生林紀行』 (共著 山と溪谷社)
 - 『文化 8-1 (特集・南方熊楠)』 (共著 岩波書店)
- その他、論文、新聞・雑誌掲載など